

# 鮮明になった中国経済の減速

## ポイント① 実質GDP成長率は鈍化

7月17日に発表された中国の2023年4-6月期の実質GDPは、前年同期比+6.3%となりました。昨年5月末まで上海市で実施されていたロックダウン（都市封鎖）の反動で前年同期比でみると高い伸びとなりました。一方、前期比でみると1-3月期+2.2%に対して、4-6月期は同+0.8%と減速しました。欧米の利上げの影響等による世界経済減速に伴い輸出が落ち込んだこと、需要が弱含んでいる不動産投資の落ち込みが影響しました。

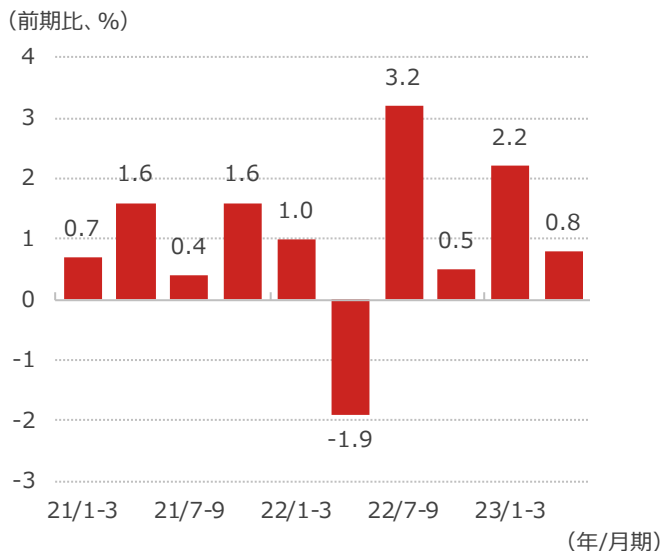
## ポイント② 6月の小売売上高は大きく減速

同日に発表された6月の鉱工業生産指数は鉱業、製造業ともに改善したため、前年同月比+4.4%と市場の予想（同+2.5%）を上回り、5月の同+3.5%から改善しました。一方、個人消費の動向を示す小売売上高はリベンジ消費の一服、昨年の自動車取得税の減税に伴う駆け込み需要の反動から、6月は前年同月比+3.1%となり、5月の同+12.7%から大きく減速しました。

## ポイント③ 注目が集まる景気刺激策

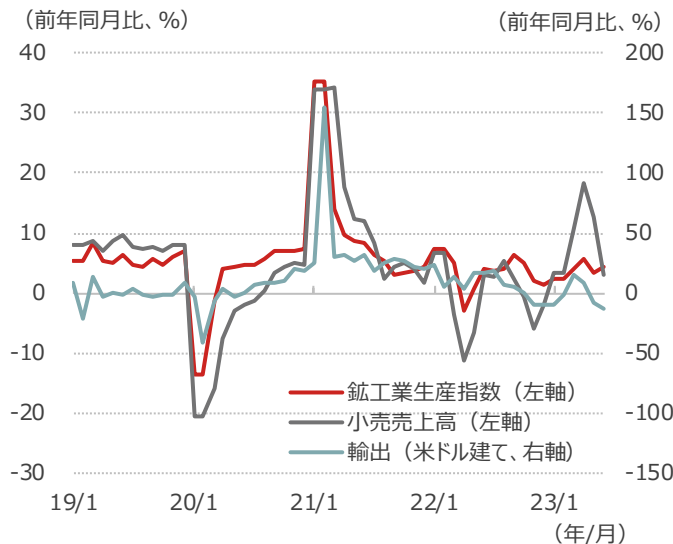
習近平政権は「共同富裕」の下、格差是正を目的に民営企業であるIT産業、不動産業、教育産業などに対して規制を強化してきました。その結果、収益力低下、投資抑制によって中国経済は減速しました。一方、足元の政策の恩恵は国有企業に集中し、「国進民退」の深刻化が窺えます。こうした中、今後習近平政権に求められることは、近年の中国経済を牽引してきた民営企業への規制緩和とみられます。習近平政権がどのような景気刺激策を実施するか、今後の政治局会議に注目が集まりそうです。

### 中国の実質GDP（国内総生産）成長率



期間：2021年1-3月期～2023年4-6月期、四半期  
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

### 中国の鉱工業生産指数、小売売上高、輸出



期間：2019年1月～2023年6月、月次  
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

|                    |       |                                 |
|--------------------|-------|---------------------------------|
| <b>重要<br/>イベント</b> | 7月31日 | 中国製造業/非製造業PMI<br>(購買担当者景気指数、7月) |
|                    | 8月8日  | 中国貿易収支(7月)                      |

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。